

平成 26 年度第 2 回生駒市介護保険運営協議会予防部会
議事録

開催日時	平成 26 年 6 月 17 日（火） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 20 分
開催場所	市役所 403・404 会議室
出席者 (委員)	高取委員、井上委員、林委員、小川委員、中庄谷委員、藤尾委員
欠席者	
事務局	福祉部長 坂本、高齢福祉課長 安達、高齢福祉課課長補佐 堤 高齢福祉課係長 谷、高齢福祉課 水澤、介護保険課長 奥田 介護保険課課長補佐 島岡、介護保険課課長補佐 田中、介護保険課係長 吉田 介護保険課 殿水、介護保険課係長 原木、介護保険課 齋藤
案件	(1) 会議の公開・非公開について (2) 第 5 期ハートフルプラン「高齢者保健福祉計画」「介護保険事業計画（地域支援事業）」の実績および評価について (3) 「高齢者保健福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画」策定に向けた生駒市の現状について (4) 新・総合事業の枠組みについて 総合事業の枠組と実施に向けた事業内容の検討 (5) その他
資料	平成 26 年度 第 2 回生駒市介護保険運営協議会予防部会 次第 資料 1 第 5 期ハートフルプランの実績及び評価 (「高齢保健福祉計画」「介護保険事業計画（地域支援事業)」) 資料 2 生駒市の高齢者の推移と現状 資料 3 新・総合事業の枠組みについて

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>1. 開会</p> <p>会議次第に沿って進めます。議事進行は設置要綱に基づき、部会長にお願いすることになっていきますので、部会長よろしくお願ひします。</p>
部会長	<p>案件（1）会議の公開・非公開についてですが、今回の案件を見ると、特に個人名や特定の事業所名等が明記されていないので、公開でよいかと思いますが、他の委員の方でご意見、ご質問はございませんか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
部会長	<p>会議は公開といたします。</p> <p>案件（2）第5期ハートフルプラン「高齢者保健福祉計画」「介護保険事業計画（地域支援事業）」の実績および評価について事務局から説明願ひします。</p>
事務局	<p>案件（2）第5期ハートフルプラン「高齢者保健福祉計画」「介護保険事業計画（地域支援事業）」の実績および評価について説明。</p>
委員	<p>資料1-2の活動に長年関わりを持っています。講座への参加者は非常に多いのですが、その講座を受けた人が今度、市民レベルで活動をする際に結びつきが弱いなというところがあると思います。意識の高い住民が多い生駒市にあって、講座は満杯なんです。勉強をして、さて、これから自分が勉強したことを地域に戻るなり、何かのところで活動を求めても、なかなかそれがつながっていかない。この前の会議の中でも、65歳ぐらいの元気なお年寄りが多く、受講者も65歳過ぎの方で会場が満杯になるぐらい来ておられる中、それをどううまく引っ張っていくかというのが課題かなと。もったいないなと私は常に思っているところです。</p> <p>それから、色々な素晴らしい事業をしておられても受講者や、参加者がゼロだったりしたところを何かのピーアールをしたら増えたというご説明もあったので、そのピーアールの仕方を工夫してはどうでしょうか。自治会の役員をしていますが、回覧を回したり、自治会でその都度細かく色々したりしているけれども、それを見ない市民の方が多いというのが現状です。せっかく生駒市が色々取り組んでおられるのに、そんなこと知りませんでしたということが多いので、やっぱりピーア-</p>

<p>部会長</p>	<p>ルの仕方をどうしていくかが課題だと思います。満杯になるぐらい色々なことをされているので、せつくなのでもったいないと思っています。感じたことを申しあげました。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局から補足があればお願いします。</p> <p>ただいまの委員のご意見について、たしかに講座の受講者数は寿大学を例にとっても、かなりの人数の方が受講されているわりには、自主活動につながる方はすごく多いのですが、地域活動に移行する方が少ないということで、ここ数年かけて、生涯学習課とも連携を取らせていただき、例えば、こういう地域活動があるということを紹介する講座などをスキルアップ講座でしています。こうしたことから、寿大学の方から一つサロンが生まれたということもありますので、継続して啓発をしていきたいと思っています。</p> <p>ピアール方法については、私どももいつも頭を悩ませていますので、またこちらの委員会の中からでも、こういう啓発がいいのではないかとか、他市町村や他事業所の取り組みでこういう効果があったということがあれば、またお知らせいただければと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>一次予防事業の介護予防教室ですが、これは単発のものと考えてよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>一次予防教室の中では、介護予防教室というのは単発のもので、介護予防講演会、介護予防出前講座まで単発のもので、体操教室に関しては継続の事業になります。認知症サポーター養成講座も単発で地域に出向いての講座が主になりますし、脳の若返り教室に関しては、半年間の期間を設けた事業になっています。あとは、ひまわりの集い、わくわく教室も継続事業になります。ボランティア養成育成講座に関しては単発と継続事業が混じっています。</p>
<p>部会長</p>	<p>単発の事業ですが、他市町村もおそらくそうだと思いますが、単発のイベントの評価が参加人数ということになっています。単発のイベントの成果を図るものさしをあまり聞いたことがない気がします、そのあたり、今後、考えることはあるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>単発の教室は、企画をする時に、何を目的に実施するかということを考えます。その時に普及啓発に主眼を置いたことであれば、広く地域住民に知ってもらう機会</p>

	<p>ということですので、啓発と考えれば評価視点を余り大きくとらえる事はせず、しかし昨今では地域型のサロンを増やしていくということを高齢福祉課と介護保険課とで推進していますので、地域包括支援センターが介護予防教室を行う際には、このエリアは非常に高齢化率が高くて、そしてひとり暮らし高齢者数が多くて、それも後期高齢者が多いという地区分析をした上で、意図的に啓発を実施、それに時間をかけてやりながら、地域型の体操教室の開催地を増やすとか、地域型のサロンを増やすといったことで、1年、2年終えたあとにかたちとして生まれてきていますので、『普及啓発』で行うものと『地域に居場所をつくるもの』というところで評価をしていけたらと考えています。</p>
部会長	<p>案件（3）「高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画」策定に向けた生駒市の現状について事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>案件（3）「高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画」策定に向けた生駒市の現状について説明。</p>
委員	<p>生駒市は要支援1、要支援2ぐらいのレベルの人が多いということですが、それは何か生駒市が色々な活動をしておられることの予防効果が表れて、そういうレベルに止まっているのか、それとも意識が高い住民が多いのか、私たちが日々活動していることに少し効果が出ているのか、どういう加減で全国に比べて高いのでしょうか。65歳、65歳と連呼されると、あまりうれしい気分ではありませんが、私も当事者の多い65歳です。ご迷惑をかけないように元気でいたいとは思っています。生駒市に関しては、全国に比べてどうなのでしょう。誇れる部分なのでしょうか。</p>
事務局	<p>ただいまのご意見は資料2の5ページに関する事だと思います。全国に比べて要支援1、要支援2という軽度の人が多い。それに反して重度の人が少ない。これは2ページの人口ピラミッドとも関連していて、全国はやはり75歳以上の方が生駒に比べて非常に多いということで、75歳以上になると、全国的には高齢者の中の30パーセントぐらいが認定を受けられるということになるので、全国的には非常に多い。ところが、生駒の場合、全国に比べて75歳以上の方が少ないという状況で、もともとの人口がまだ多くないので、人数が少なくなっているのが一つの要因と考えます。</p> <p>もう一つ、先ほどおっしゃっていただきました委員がやっていた活動、あるいはそれ以外の自主的、自発的にやられている活動、あるいはサロン事業</p>

委員	<p>など、色々なところに参加してみようと自発的に活動されている分、生駒市の場合、その意識が高いということがありますので、そういうものも含めてプラスアルファとして、このような結果ということになっていると考えています。</p> <p>そこはうれしい気持ちができる部分ですが。</p>
委員	<p>私が住んでいる地域は萩の台住宅地ですが、サロンを立ち上げて13年になります。地域のサロンです。年に一度は、地域包括支援センターの方から来ていただき、体力測定をしていただいたり、介護予防教室を受けたりというようなことをしています。参加する人がすごく増えてきたというのがすごくいい傾向かなと。私たちのサロンはよくなってきているなというのがあって、ほかのサロンもそういうこともやっておられると思いますが、そういうのに出て行こうかという人が増えてきたということはいい傾向だなと思っています。</p>
高取部会長	<p>サロンは、年々数が増えているということですが、活動の年数にはばらつきがあるものでしょうか。平均年数などの数値は出すことはできますか。</p>
事務局	<p>調べたらすぐに分かることですので、次回、回答いたします。</p>
部会長	<p>長年されているところは多いのでしょうか。</p>
委員	<p>長いです。生駒市の取り組みは早いのですが、高齢者がサロンを運営していて、若くて元気はつらつな人が参加してきています。参加している人が主催者側に回る、つながっていくというのを上手に持っていけばいいかなということをいつも実感するところなんです。いざ、その参加している人たちが主催者側になったらというのですが、それはしんどいからと言われます。その人たちの意識を芽生えさせていただいて、サービスする側になるようなやりがいにつながれば継続していけるけれども、この主催している人たちも、養成講座があった時に60歳だった人が70歳、75歳ぐらいになっているので、上手に入れ替えていけばいいのに、いつまでたってもうまくいっていないのがかわいそうかなと。75歳の人がお茶サービスをしていて、60歳の元気な人が受け取っているのもどうかなと思うんです。</p>
委員	<p>うちは違うんです。うちは年々、若い人たちがボランティアで入ってきてくれて</p>

委員	そうなければいいんですけどね。
委員	本当に若い人たちが運営してくれているんですよ。
委員	その体制がリーダーの質かも分かりませんが。
委員	いいえ、そうじゃなくて。
委員	つながっていけば、もっと活性化して広がっていったら楽しいだろうなと思っています。
委員	うちは、最初は私が民生児童委員をやっていたから立ち上げたのですが、その当時は社会福祉協議会の方からやったらどうやということで、社会福祉協議会がすごく力を入れてくれて、私たちはそれに乗ったんです。最初の1年間は費用とか、そういうものは自分たちでもってやったのですが、実績ができてきて、自治会の方が補助金を出してくれるようになって、それで、もう今は年間決まった額を私たちのサロンに自治会からお金を出してくれるようになりました。ボランティアさんも年々若い人たちがボランティアを引き受けてくれて、お年寄りには本当にみんな受ける方。若い人たちが頑張ってくれています。
委員	うれしいことですね。
委員	サロンによって色々あると思いますが、うちのサロンはいいサロンです。皆さん、見学に来てください。
部会長	中にはあまり続かなくて、途中で空中分解してしまったりという話も聞きますので、長年されているところはコツがあるのでしょうか。
委員	交流したり、いいところを取り合ったらいいのですが。
部会長	その他、よろしいでしょうか。
委員	世帯数と人口と高齢者数の推移ですが、一番下の説明の※3つ、全国の高齢化率、25年10月現在、奈良県、生駒市が書いてあって、奈良県の平均は3ポイントほど低いという話です。私がちょっと気になるのは、今、奈良県は全国平均より2ポイ

ントほど少ない。これは平成 12 年ぐらいから右肩上がりでも国も奈良県も生駒市も上がってきていると思います。その上がり方が不思議です。平成 12 年当時は十何パーセントぐらいあったように記憶していますが、そこから 23 パーセントに上がってきた。全国も上がってきた。これは、全国の上がり方がきつい、奈良県の上がり方がきついという話なのか、生駒市の方が急だという話なのか。今後、それが急に鈍化するとは考えられません。今後の見込みをするのにも、それに影響が出てくるのかなという思いがあります。

先ほどから何回も説明いただいている人口についても、高齢人口が増えてきているという話も分かりますし、2 ページ目、全国の年齢別人口と生駒市の年齢別人口は、たまたまでしょうか、右側は全国年齢別人口が千人単位、生駒市の年齢別人口は人単位、千分の一です。千分の一で、よく見てみると、65 歳の団塊の世代は、男性で 1,150 人ぐらいでしょうか。生駒市の場合は 1,200 人ちょっと。つまり、全国レベルを千で割ると、生駒の方がちょっと高いねとくみ取れますか。先般、奈良県は、全国の百分の一だといわれていました。最近は違うかもしれませんが、昔はそんなふうにいわれていました。そうしたら、生駒は人口規模だけでみると、全国の千分の一と読み取れます。前回、この 10 年間ほどで 100 万人ほど介護職員を増やさなければならない、もしくは不足するという話が出ていましたが、単純にそこから考えると 1,000 人必要であるということは、年間 100 人増やさなければならないということになります。毎年 1,100 人から 1,200 人の方が生まれていて、転職組もあるでしょうが、若い方だけを考えてみると 1,200 人のうち、10 人に 1 人ぐらいは介護関係の職に就いてもらわなければならないという話になってきます。

3 ページに表が 2 つありますが、生産年齢人口がこの 14 年間で 10 ポイント減っています。これも算式通りですか。逆に高齢人口は 10 パーセントほど増えています。14 歳までの方、中学校卒業までの方がほぼ横ばいという話です。これも同じ話で、今後、これがどうかたちになっていくか。先ほどの生産年齢人口のこれまでの推移と 2 ページのグラフが 10 年先にはどういうグラフになるのかだいたい想像は付きますが、2025 年、つまり平成 37 年には生産労働人口がどうかたちになってくるのかということもある程度、推測できてくるのではないかと思います。

4 ページ、ひとり暮らし高齢者世帯ということで、たしかに人数から見ると、生駒台が男性、女性合わせて 300 人超えていますね。俵口も 400 人超えています。生駒東が 400 人弱、生駒が 600 人近いという数字になりますが、20 年から 24 年間で平均すれば、生駒市全体で 1.45 倍になっている。この 1.45 倍という全体の倍率よりも高いのはどこかというところ、真弓が 1.63 倍、桜ヶ丘が 1.62 倍、生駒東が 1.57 倍、生駒南が 1.52 倍、壺分が 1.58 倍と。たしかに人数は 300 人、400 人はいって

<p>部会長</p>	<p>いないけれども、倍率は真弓、桜ヶ丘、生駒東、生駒南、壱分が平均よりも上回っている。これから以降、どうなるかというのは別の話ですが、これを見ると、ひとり暮らし高齢者の増え方の右肩上がりがかついているところについては、また別途同じような力をいれていかなければならない地域なのかなというふうに私は思います。以上です。</p> <p>高齢化率の伸び率、変化率、曲線の上がり方が全国と比べて生駒市はどうかという、変化率の違いで今後の予測がある程度つくというお話だったかと思いますが、記憶が不確かですが、何年間かの伸び率が出ていたかと思いますが、これは全国と比較して伸び方はどうでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今日のところは、とりあえず現状の部分のデータですので、現状部分の把握をしていただくことを中心にしています。ただ、今後の審議の中においては、危惧していただいている今後が全国と同じようだったら、同じような感じで色々なことを段取していけばいいのですが、それよりも非常に急激に伸びているような状況がもしあれば、さらに一段、二段ということで、強力に対応策を検討していただく必要もありますし、行政側もする必要があるということになります。その部分の今後の推計については、次回にお示ししようと思っておりますが、概略で申しあげると、国の方も 2025 年という長期スパンで、それは団塊の世代の方々が 2025 年に 75 歳以上になられますので、それが全国一律同じようなスピードで増加していくのかどうか。これは高齢化率というよりも、その指数という形で国の方は資料を出していますが、都道府県単位で非常にばらつきがあります。生駒は、2025 年の上昇率が全国の市町村数の中でワースト 5 パーセント、上昇率がきつい上位から 5 パーセントの枠に入っていますので、2015 年から 2025 年を見た場合にどうですかということで、75 歳以上が 1.7 倍に増えるというデータを次回以降、お示しする予定にしています。多分、そういうことになりますので、結論的には全国平均の見方よりも、一段、二段、三段という形の強力な施策、あるいは対応策が必要と考えて、この第 6 期 3 年間に構築しないといけない。ただ、それは言葉で言うほど簡単にできるものではありませんので、その辺、地元との協力、あるいは各事業者、色々な団体さまのご理解を得ながら進める。その困難さがつきまとうのではないかと考えていますが、次回以降で具体的な数字はお示しいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>役所にあるデータの積み上げでできるのであればいいのですが、市内の介護サービスの事業所がありますが、そこに勤めている方の数、直近のデータで、常勤換算でいいので、それが分かればと思います。市町村間を越えてサービスを受けにいっ</p>

	<p>ておられる方、例えば、特養であれば奈良市の方もおられますが、そこまでは計算できませんので、生駒市内の事業所を使っておられるとした時に、現在、これだけの対象者にこれだけの職員がかかわっているということが分かります。現在のサービス提供者のニーズが分かれば、サービスの受け手の方も分かります。そうしたら一人あたり何人かということがぽんと出てきます。将来推計はぼちぼち出していきますという話がありましたが、3年後、5年後には対象者がこういう形で増えます。今の1人当たりのサービスがそのままだとしたら何人必要かということが簡単に出ると思います。逆に、国の制度が変わって、この辺は軽度の方だから外してということになると、プロの介護職員さんはこれだけはいらないという話に当然なってくると思います。だから、そういった現在の常勤換算のニーズが何らかの形で分かれば、次回でも教えていただければと思います。そんなデータはどこにもないのであれば、結構ですが。</p>
事務局	<p>今のご意見については、具体的に市内事業者の勤務職員のデータを直ちに一括で持っているということではなく、基本的には、特に大きいデイサービス、ホームヘルプ等については、県に許認可権がありますので、県のデータでそういったことが分かるかもしれません。それで分からなければ、各事業所に調査をかけさせていただくという方法になろうかと思えます。</p>
委員	<p>情報公開の資料に載っていませんか。</p>
事務局	<p>調べますが、それを一括で表示したものは見たことはありません。</p>
委員	<p>一事業所ごとであれば載っていますか。</p>
事務局	<p>その点については確認いたします。</p>
委員	<p>介護する職員が千人単位で増えなければならないというお話も切実な思いもしますが、私は4人の年寄りと同居して、家で介護して送ってきた立場としては、行政や介護の派遣していただく制度がもっときちんと充実すれば、介護施設へ送ることなく、ぎりぎりまで家庭の中で看取りができるのではないかと思います。高齢化の上昇率が高いということもあり、将来は、それほどうれしい話ではない感じはしますが介護の施設だけを頼りにするのではなく、何年かかるか分かりませんが、違う意味での取り組みも広げていただいたら、家庭でもんもんと介護だけで終わる、誰からもほめてもらうことなく人生を送る女の立場としては、楽しく家で介</p>

委員	<p>護できるような制度ができてきて、施設の方へ全員送ってしまうというエスカレーターではなく、違う意味でのことがあればうれしいなと主婦としての意見を申しあげます。</p> <p>それは施設だけではなくて、今、おっしゃっているヘルパーうんぬんも含めて千人単位で増やさないと、ということですから、施設に入るかどうかはハード面の話で、到底同じ比率で施設を増やそうというのは無理があるでしょうし、何十年後には必要なくなる、50年過ぎたら半分ぐらいいなくなるという話ですから。</p>
委員	<p>65歳がどうだという話ばかりで、うれしくない話ばかりで、いい意味でみんなで支えられる、地域ぐるみで何かできるような体制があれば乗り切れるのではないかと私は楽観視しています。65歳が多いといわれますが、65年生きてきたのですから、もっと早く死んでいたらこんな高齢化社会になっていないわけですから、逆からみれば、いい時代だなと。元気な65歳が多いというのは財産だなとアピールしたいところですが。</p>
委員	<p>厚生労働省は400万人単位で（介護従事者を）増やさなければならないと。推計すればそういうことですが、それは無理だろう。それを生業にしている、プロだという部分だけでは人を集めるのは無理だから、ボランティアさんをたくさん使ってという、アマチュアの部分でいい部分と、というようにどこかですみ分けをしろということをおっしゃっているのでしょうか。僕らからすると、今までやっていたことが、ある部分はアマチュアでもちゃんとできるだろうといわれているみたいな話ということですか。</p>
委員	<p>それもまた難しい話ですね。</p>
委員	<p>それは感情とは別に、介護職員が100万人単位で増えたら経済がぐちゃぐちゃになるという話で、それはそれで困るという話なので、落としどころを考えないといけないということでしょうね。</p>
委員	<p>誤解無きようお願いしたいのですが、サービス提供量を減らして路頭に迷う人を増やせと言っているのではありません。どう考えても、介護職員を増やすことはできないのであれば、違うことを考えなければ仕方がないのです。数字をごまかしようがありません。数字をごまかしたら、ツケはわれわれに回ってくるだけの話ですから。では何を探そうか。それをしないことには、ただ人数が足りない、それな</p>

<p>部会長</p>	<p>らどうしようもありませんわということで議論が終わってしまうと、これはとんでもない話になると私は思います。ですから、こうしようああしようという話が出てこない。</p> <p>その部分は次の案件、総合事業につながるのかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>次の案件にいく前に、資料2のデータについて質問します。データを見せていただきましたが、私が不思議に思うのは、老々家庭の推移が全然出てこないということです。ひとり暮らし高齢者は分かるのですが、今は老々家庭がすごく増えてきているのに、その推移が全然出てこないというのはどうしてでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>高齢福祉の方で、災害時要援護者のからみがあって、ひとり暮らし高齢者に関しての調査をしています。ご存じだと思いますが、今、民生児童委員さんにご協力をお願いして、ひとり暮らし高齢者の調査をしています。そこで老々世帯の話も出ていますが、一方ではその調査の中でも個人情報勝手に持ち出すなどということ、かたくなに拒否される方が最近多い状況になっています。この辺をどうしていくかということで、今後の課題とは思っているのですが、民生委員さん市内164名で何千人という方を調査しなければならない為、やはり民生児童委員さんの労力も非常に厳しい状況になってきております。民生さんも増やしてほしいという声もかなりいただいている中で、今の段階ですべての老々世帯を調査するのは難しい状況です。</p>
<p>委員</p>	<p>それは民生児童委員の仕事だけではなく、行政の方で、住民基本台帳などで老々家庭を把握できるのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>住民基本台帳に基づいて、それを抽出したデータがこれの基本になります。ただし老々世帯かどうかというのは、現実には住民票とは半分以上が変わっているのです。住民票がこうだからといって、この数字が老々世帯です、あるいはひとり暮らし高齢者ですとはまったく言えない状況になっています。だから、最終的には調査をしないとわからないという状況です。特に所帯の中には、所帯を分離しているところもかなりあります。同じ家族だけれども、何らかの事情でご主人さんと奥さんを分けるといった世帯もだいぶ増えているようなので、やっぱりそれは実調査して確認しなければ分からないという状況もあります。なかなか統計上というか、表見調査では見えてこない部分がありますので、難しいという状況です。</p>

委員	<p>今、ひとり暮らしの方たちは民生児童委員さんが調査して、なんだかんだと民生児童委員さんは手を差し伸べていらっしゃるんですが、老々家庭の本当に80歳同士が支えあって生きておられる家庭もすごく多くなってきているんです。そういう人たちにはどのように行政は手を差し伸べてくれるのか、私はそれが一番気になります。</p>
事務局	<p>手を差し伸べるというのは、もちろん介護保険制度のからみもありましょうし、自治会と協力して進めている災害時要援護者、また最初に説明しました緊急時の対応など、色々組み合わせでいくことが一つ。それからコープのやっている見守りなどを活用するなど、色々な方法まで合わせてやっていかなければ、すべて一気に解決するのは難しいのではないかと考えています。今でも、そういうことをするのが行政だというお声もいただきますが、行政ですべてを解決するというのは無理です。だから、自助、共助に加えて「互助」を入れて、それから公助という話が国でもいわれています。行政が、しようと思っても、それだけでは物理的にできない状態になっているということもご理解いただきたいと思っています。</p>
委員	<p>そのためには縦割りではなくて、色々なところに協力体制を取っているのですね。</p>
事務局	<p>今回初めてコープと見守り協定をしましたし、これからも色々なところとやっていきたいと思っていますし、徘徊の検索ネットワークもきちんとしていきたいと思っています。ただ、それは相手のあることですし、協力してもらえるかどうかも分かりませんから、その辺も踏まえて、地道に掘り起こしていかないといけないのではないかと思います。</p>
委員	<p>私が民生児童委員を長年経験した中で、やっぱりひとり暮らしの方たちは調査して、その人の状態を色々な面で把握できますが、老々家庭の調査は行政からは何も言ってこないし、そういうことを何もしない状態でできていますでしょう。そうしたら、ひとり暮らしの方たちは訪問した時に、介護保険のこういう制度がありますよと色々な説明をしてあげられますが、老々家庭のおうちにはその説明にもいけないんです。私が体験したことですが、ご夫婦共に認知症になられて、家で生活しておられて、ご近所の人がおかしいおかしいといっているうちに、ご夫婦共に認知症が進んできた。どうしたらいいんやというようなことがやっぱりあるんです。そういう中で、老々家庭もなんとかしてあげないといけないんじゃないかと私はつくづく、今も思っています。</p>

事務局	<p>それは私も思っていますが、どうすればよいのか今のところ思い浮かびません。市が単独ではできないし、民生児童委員さんにもこれ以上、負担をかけられないという状況ですし、自治会も市の方から色々なことをお願いしている状態ですし、何を活用して、どのように動いたらいいのかと。住民票での調査はできますが、実情とかけ離れている面がありますから。実際に行って確認しなければ難しいかなと。ただ、災害時要援護者制度は、一定の要件がありますがそれは自治会の班ごとに動いていただいております、そこで見えていただいて、こういう方がおられますよということがありましたら、そこで一緒に入れていくことができると。</p>
委員	<p>それはいいことだと思います。自治会が全部それを前にならえでやってくれていたらいいのですが。</p>
事務局	<p>自治会が全部それを受け持つような余裕があるかといったら、自治会も厳しい状況です。民生児童委員さんもそれがお仕事ですよといっても、月のうち半分ぐらい動いてもらっていますから、一人暮らし調査だけでも何カ月もかけてやってもらっている中で、老々世帯もお願いしますというのは。</p>
委員	<p>民生児童委員さんは無理ですが、民生児童委員さんと協力してできる協力員さんとか、そんなことを考えてほしいなと思います。</p>
委員	<p>それは自治会が頑張らないと。私はそう思っているんです。自治会も頑張っていますよ。</p>
委員	<p>自治会は自治会で行事が色々あって、そこまですできないという自治会もあるんです。</p>
委員	<p>できます。</p>
委員	<p>チェックリスト等で未返送者とかがあると、そういうところには、だいたい地域包括支援センターとかが行くようになっています。本当に一部ですが、実際に未返送者の方がいた時に、地域包括支援センターで実態把握に行った時に、その家庭が老々介護であるということもみつける場合があって、それを市に報告したという事例もあります。そのエリアの民生児童委員さんと協力しあって、その方に介護保険の説明をしに行くこともしています。本当に一部ですが、そういうこともチェッ</p>

委員	<p>クリストの実態把握になってからは、包括支援センターの職員が行けるようになって、多少なりとも把握しています。</p> <p>包括支援センターには、ある程度情報を提供していますが、その情報を提供できる状態になってからではなくても、本当に目に付かない老々家庭がすごく今、増えてきているんです。</p>
委員	<p>老々家庭もそうですし、高齢者世代で子どもがニートという家庭もすごく多くて、それはご近所さんからの情報とか民生児童委員の情報もあるし、何らかの形で病院に通っておられたら、病院の先生の方からの連絡があるんです。先生の方から、ちょっと気になる患者さんがいるという情報が入った時には、そのエリアの地域包括支援センターが動くことになっています。本当に一部ですが、そういったことで動く場合もあるので、それと自治会や民生児童委員が協力すれば、もっとたくさんの老々介護の人を見つけることができるかもしれませんが、今は一步一步という形で地域包括支援センターが動いています。実際、自分も包括支援センターで動いていましたので、その辺はやっていたなと思います。</p>
部会長	<p>案件（４）新・総合事業の枠組みについて、総合事業の枠組と実施に向けた事業内容の検討について事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>案件（４）新・総合事業の枠組みについて、総合事業の枠組と実施に向けた事業内容の検討について説明。</p>
部会長	<p>集中介入期とか生活期という区分でされているのは、生駒のオリジナルな部分だと思っています。集中介入期については、幸楽で行われている部分と今まで何かお感じになるところや課題、ご意見はありますか。</p>
委員	<p>実際、うちは幸楽を運営していて、今年、3月期に、認定を受けていらした方のうち20名ぐらいが認定を「受けない」ということで、実際、介護保険を利用しないということで、保険の更新をされずにお返ししました。頑張った成果が出たのかなとあって、内々では喜んでます。実際、市の方にもそういう成果は認めてもらっていると思っています。それで、返すだけではなくて、ここにも載っていますが、自分はここで元気になったから、次にボランティアとして行きたいという方も増えていると聞いています。先ほどの話にもありましたが、そういう方が順番にボランティアをしていかれて、できるだけ介護保険も使わずに元気に過ごしましょうとも</p>

	<p>っていけたらなどは考えています。</p>
事務局	<p>一度見学に行かせていただきましたが、ボランティアの方の熱意がかなり熱くて、自分のためにやっているとおっしゃっておられました。</p>
委員	<p>生きがいになっているとおっしゃっていました。見学に行った時は、最初はどちらが利用者でどちらがボランティアか分からないというのもありましたが、実際、「1、2、3、4」というようにすごく大きな声を出されて、自分もこれをする事によって元気になるからというふうにおっしゃっていましたね。</p>
委員	<p>ぜひ見に来てください。</p>
部会長	<p>介入期や移行期で実際に関わられているところのご意見を順にお聞きしたいと思います。移行期に関して今までお感じになられたことなど、ご意見等ございますでしょうか。</p>
委員	<p>3カ月、12回来られますが、面識のない方がお集まりになられますので、最初何回かは大人しい感じはしますが、メニューが決まっています、同じように体操して体を動かしますので、終わるころには仲良くなられて、その後も仲間内で集まるようになっていくグループもあるようです。そういう影響はいいかなと思います。サロンの数も増えていて、その人たちが次に行ける場所にスムーズに移行していきるのが一番いい場所だと思っています。</p> <p>先ほどサロンの運営について、若い方がどんどん入ってきて、高齢者は受け手だという話がありました。一方、集中介入期のボランティアさんももちろん高齢者の方で、受け手でも送り手でもどちらでもいいと思いますが、関係だけのことで、どっちもが年寄りだけにならないように、若い方が受け手になっていてもいいのではないかと。サロンに行って、お茶を出してもらって、おしゃべりして帰っていく若い人がいてもいいというふうに僕は思います。若い人も出入りしている場所にするにはどうしたらいいかということ考えた方がいいのではないかと思います。サロンが自然体でそうなるといいと思います。そういうところにうまくつなげて、サロンを運営している側のお年寄りになるというのも、ずっと元気の秘訣ではないかと思っています。役割の喪失が居場所のなくなる理由なので、役割をわざわざつくるのも方法だと思います。話が違う方向にいつてしまいましたが。</p>
委員	<p>結構、このサービスは人気があります。やらされているという思いを持っておら</p>

	<p>れないような気がします。デイサービスだと、やらされているような格好で、何でもそんなことやらなければいけないんだということが多いのですが、このサービスは結構、自主的にやられていて人気がありますね。そういう意味では、ああいうサービスが主の予防サービスになれば、もっと増えてくるのではないかと勝手に思っています。しかし、費用対効果を見せてもらいましたが、これについてはどうかと。たぶんこれは、比較部分は介護サービスの単価を元に計算したものだと思いますし、それから介入分については、生駒市からの委託料でもって計算されたと思います。厳密には委託料はこれ以上出せませんという話なので、実際、その事業所はそれだけで済んでいるかという、非常に微妙なところがあると思います。来年4月からは、この額でいきますよというのもわれわれとしてはつらい話です。逆に安くするためにこうしたんだよといわれると、じゃあ、その中身をどういう形でつくっていくかと、非常に悩ましい話だなと思います。専門職をそこに入れていますので、その人件費をみていくと、かなり厳しい中身になっているのが現状です。かといって、高くすると意味がありませんので、これを見ていて、来年4月からどうしようかなと思っているところも内心あります。</p>
<p>部会長</p>	<p>生活期の方で、今後も重要になってくると思いますが、ひまわりの集いで実際にされていてお感じになること、ご意見ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>発表していただいた通り、とてもよく内容的にも充実していますが、これを地域に展開していきたいというのが私の思いです。ただ、決まったところに集めていくというのも一つのやり方ですが、何でもいいから、何かしているところへひっついていきたいというのが私の思いですが、なかなかひっつけてくれないというのが悩みです。「呼んで」といっても呼んでくれないというのが現実で、受け手が、「私たちだけで頑張っている、私たちだけで十分だ」という団体の人が多くて、来てもらわなくても私たちだけで頑張っているのよと。表面では来てねと言われるけれども、なかなかマッチングしないというのが現状です。</p> <p>それぞれのボランティアさんが一所懸命頑張っていて、長年頑張ってるねん、私らはすごいねんという思いがあまりにも強すぎて、私のように、一緒にしようやという人が少ない。そんなに固まらなくてもと思うのですが、来てもらった人のおいしいところだけぱっと取れば勝負は早いのに、私たちで十分できてんねんといって、あの辺がボランティアの基本を忘れているなということを感じています。これからボランティアを育成する時に、やっぱり1人ではできないということをしつかりと教育していただいて、一緒にしよう。Aさんだけではできない、Bさん、Cさんがいて一つの何かができるというようなことを教えていかないと、1人ずつの</p>

	<p>ボランティアのやりがいばかりを言っていたら駄目だと思います。一緒にみんなできなければできない。</p> <p>自治会活動でもそうですね。一緒にみんなでするからできることで、こういう色々な制度ができてきますけれども、やっぱりその辺が弱いなど。あまりにも私たちがやっている、私たちだけがすごいと思込んでいる人が多い。呼んでねと言っても、いらんわと言われたりします。そこを今年1年かけて、生駒市隅々へ、レベルは低いですが、大したことはできませんが、生かしてほしいなということで、実績や評価は後から付いてくると。そういうおっちゃん、おばちゃんがいっぱい生駒にいたら、この問題は解決できるなと思います。だから人を育成する、育てるところで、その基本の部分をしっかり育てていかないと、おいしいところだけ、いいことばかり言っていたらなかなか広がらないと思います。</p>
部会長	<p>そのハードル、敷居はプライドのようなものが大きいのでしょうか。</p>
委員	<p>そうなんです。私らでやってんねん、私らがすごいねんと固まってしまうんです。そういう団体の気持ちも分かるんですが、それだけでは先がないから、5年、10年はできても先がない。50歳の人が60歳、70歳になってきた時に、みんなでしょうなという部分をもっと育てなければならぬと思います。1人を育てるようなところがありますね。自分がやりたいことをしたらいいねん、行きたいところがあれば行ったらええねんみたいところを、あまりにも前に出し過ぎて、そうではなくて何かを勉強したら、それを何かで自分が光るところを求めていきたいというようなワクワク感を育てていかないと、勉強だけして、頭ばかり大きくなって、それが活用されないもったいないと私は思っているところです。</p>
部会長	<p>実際に、そういう形で橋渡しの役割をされる方というのは少ないのでしょうか。</p>
委員	<p>ボランティアを育成しているところで、それではあかんねんで、ということをおいてもらっていただいたら、やりやすいかなと思います。苦労しているところです。この前、ボランティア養成講座があって、私が講師で行ったんです。それで私が話をしたことで共感してくれた人が入会してくれて、うしろからついてくるのかなと思ったら、前を走っていて、ええっと思ったりして。だからその持っていく方、育て方がすごく大事だなと実感したところです。</p>
部会長	<p>今回は思うところというか、わりと自由な意見交換ということを知っていますの</p>

委員	<p>で、他の委員の方々も思うところがありましたら、ご発言いただければと思います。具体的な方向性というよりは、自由意見をお願いできればと思います。</p> <p>事例が何人か提示されていると思いますが、私、個人的には集中介入期からひまわりの集い等に行くような形の、いい事例の、ある意味見える化が、こういうコースをたどって行って、現在はこんな状態を維持できているのだというふうなことを出していくというのは、すごく大事ななと思います。例えば、ひまわりの集いに参加されている方の健康チェックとか、身体機能のチェックというのは、何か定期的に受けられる機会はあるのでしょうか。</p> <p>元気だということは見て分かります。今までは、教室へ入ってみんな楽しくしゃべっていたのですが、このごろはホールの入り口で手を握り合って、「元気か」と言い合っていて、なかなか部屋まで入ってくれないぐらい盛り上がりを見せていて、元気だなという感じですね。このごろは、この人の横でないと嫌とか言い出してきて、主催者側が振り回されているぐらいです。70代ぐらいの方は元気ですよ。私たちのように、素人軍団がするのもいいのかなと。調理師や栄養士であるプロの方たちがかかわるのもいいですが、住民レベルの“いい加減さ”でかかわるのもいいのかなと。向こうもしょせん住民だと思っているので、気楽にかかわれるというか、気安さというか、近所の姉ちゃん、おばちゃん感覚でしゃべることができる。それが保健師だったり、専門職だと、私もプロよという感じで距離を置くと思うのですが、しょせんおばちゃんだと思っているから、気安さというのがいいのかなと私は思っているところです。</p>
事務局	<p>補足ですが、ひまわりの集いでも、地域包括支援センターの職員がかかわっていますので、健康チェックというか、基本チェックリストは必ずさせていただいて、簡易プランを作成していますので、評価もしっかりしていることを付け加えさせていただきます。</p>
部会長	<p>集中介入期のところから、実際にはシナリオ通りというか、上から順に下りていかれて、最後ひまわりの集いというような流れを取られる方というのは、結構いらっしゃるということですか。</p>
事務局	<p>そうですね。骨関節疾患とか、膝や腰部脊柱管狭窄症の方は一旦、移行期を通過して生活期の事業に行かれますが、単なる廃用性の方は、ある程度元気になれば、いきなり生活期の事業に移行される方も多くいらっしゃいます。</p>

部会長	特に質問等ないようでしたら、第2回の生駒市介護保険運営協議会予防部会を終了いたします。委員の皆さま、大変お疲れさまでした。
事務局	次回の部会について説明。 (終了)